

# 港区史（令和刊行）

## 1 刊行経緯

港区は、平成29年3月15日に70周年を迎えました。70周年記念事業の一環として、「新修港区史」（昭和54年5月刊行）から約40年ぶりに、港区史の編さん事業を行っています。

## 2 刊行・Web公開年月 令和2年10月～令和5年3月まで順次

発行部数：通史編・自然編・資料編 各巻1,000部、図説 1,800部  
（販売価格：自然編：3,000円、他未定）

### 基本方針

- （1）区の先史から現代までの歴史的・文化的特性に配慮すると共に、区政70年の歩みも体系的に記録し、後世に語り継いでいける区史とします。
- （2）学術的研究を基に、新たな区史の編さんを行います。
- （3）図や写真を多く用い、分かりやすく、読みやすい、身近に感じられる区史とします。
- （4）区民との協働により編さんを行うことで、区民が愛着の持てる区史とします。
- （5）ICT（情報通信技術）を活用することで、国内外に広く港区の魅力を発信します。
- （6）収集した資料及び今後新たな研究・検証等に基づく資料は継続的に収集を行い、管理・保管し、定期的に検証します

### 特色

- 区民が手に取りやすく親しみやすいよう、装丁はソフトカバーとし12分冊としています。
- 誰もが読みやすいよう、ユニバーサルデザインフォントを採用しています。
- インターネットで閲覧・検索でき、それぞれの興味に沿って読むことができます。また、関連する絵図や写真等も同時に閲覧でき、区史をより身近に感じることができます。

## 3 構成 12巻（Webでは刊本ビューア<sup>①</sup>およびフルテキストデータ<sup>②</sup>を公開）

※第11巻は①を令和2年10月・②を令和2年12月、第12巻は①を令和2年12月・②を令和3年3月に公開予定

### <第1巻> 通史編 原始・古代・中世

令和3年3月刊行・Web公開予定

監修：(原始)高山優 (古代・中世)漆原徹 執筆：9名

A5 約320頁

【原始】（序章）原始の港区域（第1章）港区の考古学研究史（第2章）旧石器時代（第3章）縄文時代（第4章）弥生時代  
【古代】（序章）古代の港区域（第1章）港区域の古墳時代（第2章）律令制下武蔵の国郡制（第3章）律令体制の整備と古代武蔵国の諸相・景観（第4章）古代末期の港区域とその周辺  
【中世】（序章）東国の中世―港区中世概説（第1章）鎌倉時代（第2章）室町時代（第3章）中世寺院 ※変更の可能性あります

#### 【特徴】

原始では、港区での考古学研究の進展をたどり、港区域の当時の様相を自然環境も踏まえて紹介します。古代では、文献史料と考古資料の研究結果を合わせた視点から、その景観や政治史を紐解いています。中世では、江戸氏や後北条氏などの武士の動向を追うだけでなく、代表寺院である善福寺と増上寺の由来を大きく取り上げ、港区の歴史を捉えることができるように構成しています。

#### 【新修港区史との違い】

近年の遺跡発掘調査や文献史料研究の成果を盛り込んでいます。原始では、港区における考古学研究の章を設け、区内の遺跡がどのような人々の手により明らかにされてきたのかを振り返ります。古代では、文献史料による研究成果に考古学的知見を取り入れ、中世では寺院を章として独立させ、代表的寺院（善福寺・増上寺）の歴史と板碑に焦点を当てています。

### <第2巻> 通史編 近世（上）

### <第3巻> 通史編 近世（下）

令和3年3月刊行・Web公開予定

監修：岩淵令治 執筆：20名

A5 上：約450頁 下：約300頁

近世（上）（序章）近世の港区域（第1章）都市開発と災害（第2章）武家地（第3章）寺社地  
近世（下）（第4章）町人地・百姓地（第5章）文化（第6章）幕末 ※変更の可能性あります

#### 【特徴】

序章では区の5地区と江戸時代の地域名の対応関係や、地形との関係を示しています。そのうえで、分節構造論に基づいた地目（武家地・寺社地・町人地）を柱として構成し、冒頭で都市の成立過程、下巻の後半で区内の多彩な文化や幕末の様相を記述しています。また、自治体史では考古学の記述を独立して扱うことが多いですが、本巻ではそれぞれの章の中で記述し、文献史学・考古学の成果を合わせて近世の港区を見られるように構成しています。

#### 【新修港区史との違い】

新修港区史編さん以降、近世史研究と都市史研究が大きく進展しているため、その進展の成果を反映しています。また、新しく開館した港区立郷土歴史館の所蔵史料、近年の研究や港区をはじめ全国各地における史料調査・整理で新たに発見された史料をとりあげ、そこから読み取れる港区の歴史についても記述しています。さらに、東京都内でも港区がいち早く取り組んできた近世遺跡の発掘調査の成果も取り入れています。

### <第4・5巻> 通史編 近代（上・下）

令和4年3月刊行・Web公開予定

監修：寺崎修、都倉武之 執筆：16名

A5 計390頁程度

（序章）近代の港区域（第1章）明治前期（第2章）明治後期（第3章）戦間期（第4章）戦時体制（第5章）文化と文化財  
※変更の可能性あります

#### 【特徴】

章を明治前期後期、戦間期、戦時体制とし、それぞれの時期で行政・政治、土地利用、教育、経済、衛生、公安、宗教、軍事・兵事などの分野について詳しく記述します。

#### 【新修港区史との違い】

これまでの区史では記述があまりなかった文化について章を設けます。また、幕末維新政治情勢や、戦間期・戦時体制の中での各分野の概況、文化の中では史跡・近代建築等も取り上げます。

### <第6・7・8巻> 通史編 現代（上・中・下）

令和5年3月刊行・Web公開予定

監修：大山耕輔、石上泰州 執筆：23名

A5 計750頁程度

（序章）戦後復興から国際都市へのあゆみ（第1章）港区の誕生（第2章）港区政70年のあゆみ（第3章）港区の人口と社会（第4章）港区の町域と地名（第5章）区民のくらしと地域社会（第6章）港区の税財政（第7章）（1）都市整備とまちづくり（2）開発と街づくり（第8章）（1）都市整備とまちづくり（2）環境の整備（第9章）安心・安全な港区を目指して（第10章）港区の産業の発展（第11章）働きやすい社会を目指す港区の取り組み（第12章）健康で快適な区民生活を求めて（第13章）福祉のまち・港区（第14章）“教育の港区”の展開（第15章）港区の文化発信と国際性 ※変更の可能性あります

#### 【特徴】

港区誕生から戦後復興、街の変化と、時代背景に伴って変化してきた行政施策、人口の変化、国際化など、港区の70年のあゆみを分野ごとに記述します。

#### 【新修港区史との違い】

新修港区史では戦後の高度成長に重点が置かれていますが、その後、財政危機に対して取り組んだ行政改革、定住化対策、総合支所制度などの平成の記述が加わり、70年全体を新たに編さんします。

### <第9・10巻> 資料編

令和5年3月刊行・Web公開予定

監修：通史編各時代監修者

A4 計1,000頁程度

※構成検討中

#### 【特徴】

通史編に関連する史資料を時代ごとにまとめて掲載します。古文書等は翻刻（活字化）して掲載し、遺跡の概要等も掲載します。

#### 【新修港区史との違い】

新修港区史を含め、これまでの港区史編さんでは行われなかった、初めての取り組みです。

### <第11巻> 自然編

令和2年10月刊行・Web公開予定

監修：高山優 執筆：5名

A4 フルカラー 約110頁

（序章）（第1章）港区の地形と地質（第2章）港区の気候と気象（第3章）港区の生物（第4章）自然の歴史と人びと

#### 【特徴】

区内では、ほとんどの区域で、人びとの手が加えられてきたとはいえ、今なお多彩な自然に恵まれています。自然編は、約3万年にわたって人びとの活動の舞台となってきた港区の自然の歴史を知り、学ぶことを目的として編さんしています。

#### 【新修港区史との違い】

新修港区史は昔の自然をメインとした構成ですが、今回の区史は、港区の自然の遷移や特徴を写真、図表等で知るだけでなく、現地観察へ誘い、自然に関わる現代的な課題について探求するためのテキストとして活用できる構成および内容としています。独立した巻としての編さんは、初めての取り組みです。

### <第12巻> 図説 港区の歴史

令和2年12月刊行・Web公開予定

監修：高山優 執筆：11名

A4※フルカラー 約280頁

（第1章）自然（第2章）原始（第3章）古代（第4章）中世（第5章）近世（第6章）近代（第7章）現代

#### 【特徴】

全ての頁をカラーとしていることが、図説の最も大きな魅力です。自然と各時代の特徴的なトピックについて、豊富な写真や図版を用いて、分かりやすく解説しています。また、概要を英文で記載しています。

#### 【新修港区史との違い】

新修港区史を含め、これまでの港区史編さんでは行われなかった、初めての取り組みです。

※執筆を行う監修者は、執筆者人数に含んでいます。

## 4 港区史編さん委員会（14名）

委員長（全体監修者兼務）：井奥成彦（慶應義塾大学文学部教授）

委員：岩淵令治、都倉武之（学識経験者2名）

唐木富士子、小林元子、小林靖彦、野尻三重子、渡邊仁久（区関係団体推薦者5名）

両副区長、教育長、麻布・芝浦港南地区総合支所長、総務部長（区職員6名）